



今年度も生活科学科での学びを活かし、多くの活動をすることができました。実践的な取り組みを通して、皆さんが生き生きと活動する姿をみて大変嬉しく思っています。

3年生の皆さん。いよいよ卒業を迎えますね。様々な活動において、皆さんの発想力や適応力、瞬発力には目を見張るものがありました。次のステージでも、皆さんの活躍を楽しみにしています。

2年生、1年生の皆さん。今年度の活動はいかがでしたか？“よく頑張った！”“もう少しできたかも…”と想いは人それぞれですが、今の学びが自分のため周りの人のため、そして地域のために活かされるという貴重な経験は、今後の皆さんの力になったことと思います。次の学年で大きくジャンプするために、今できること、やるべきことをしっかりと積み重ねていきましょう。自分自身の過ごし方や気持ちの持ち方で、今後は変わってきます。有意義な0学期を過ごすことで、これからの学校生活が更に実りあるものになるよう期待しています。

## 横浜 STEAM EXPO 2023(産業教育フェア)

[矢野先生]

11月28日(土)29日(日)に横浜市役所アトリウムで「横浜 STEAM EXPO2023」が開催されました。今年度は、産業教育フェアと他のイベントをコラボレーションし、専門高校の生徒が自ら考えた企画・運営により、多くの方に向けて開催することになりました。

生活科学科では、1～3年の授業での活動をパネルで紹介し、また、ステージでのファッションショーとおむすび販売をしました。おむすびは、『川崎宿 400年おむすびレシピコンテスト』で今年度優勝した“塩さば柚子胡椒マヨむすび(3A佐藤みくさん)”と、昨年度準優勝した“ひじきと小松菜の三角おむすび(3A田邊愛実さん)”をセットにしてお菓子司飯田屋さんに作っていただき、300セットを販売しました。



【優勝】塩さば柚子胡椒マヨむすび



生活科学科 3年  
佐藤みくさん

### ★おむすびコンテスト優勝インタビュー！

○メニューができたきっかけは？

先生のアドバイスをもらい、悩んだ末、私の好きな食べ物や調味料を集めて入れておむすびにしたら、おいしかったです。

○おむすび(決勝の日)を食べてみてどうでしたか？

柚子胡椒が辛過ぎず、こどもから大人まで様々な人に食べていただき、「おいしい！」と言ってもらえました。とても嬉しかったです！

○優勝した感想をどうぞ！

びっくり！！(まさか選ばれるとは！)  
記念すべき東海道川崎宿 400年の年に優勝できて、高校3年生の良いスタートとなりました。



## おむすびの帯デザイン BEST5!

[おむすび販売]

1年生がおむすびの容器に巻く帯をデザインしました



## 2A『おつけもの慶さん商品開発・販売』



生活科学科2年生とおつけもの慶さんで商品開発・販売を実施しました。まずは7月に工場見学へ行き、製造工程や販売についてお話を伺いました。おつけもの慶と生活科学科2年生で『プロジェクト K』を立ち上げ、キムチの商品を考案しました。おつけもの慶さんからもアドバイスをいただいて試作を繰り返し、11月19日にアゼリア中央広場の“慶 20周年フェスティバル”にて商品化されたキムチ3点が紹介・販売されました。



もっちーずキムチ 1,080円  
おつまみキムチ 850円  
万能ちよいキムチ 850円

商品販売

●販売場所 「おつけもの慶」 アゼリア川崎店  
京急川崎駅4・5番線 自動販売機  
JR川崎駅 自動販売機

## 2A 商品開発

[荒木先生]

『プロジェクトK』と題し、6月から始動し、キムチとは何か、どのようなキムチが売られているのかを調べるところから始めていきました。「固定概念を捨てよう！」「楽しんで開発しよう！」とお話をさせていただき、各班趣向を凝らしたキムチが出来上がっていきました。日持ち、値段など普段の調理ではあまり考えないようなことが多く、苦戦することもありました。最終的に選ばれたのは3点でしたが、それ以外にもたくさん推したいものが多く、生徒の発想に驚かされるばかりの企画となりました。



## 1A 校外学習～崎陽軒工場見学～

[野本先生]

1月16日(火)に崎陽軒横浜工場に行ってきました。1928年(昭和3)から発売以来、変わらぬレシピで変わらぬおいしさを提供して下さる企業の方々の働き方にはどのようなヒミツがあるのか、1954年(昭和29)の発売から人々に親しまれている「昔ながらのシウマイ弁当」にはどのような工夫がされているのか、実際に見学して、工場の様子や衛生管理などを学習してきました。多くの生徒が、調理方法や人の手で丁寧に作業される様子を見て感動し、改めてシウマイ弁当の良さを知った一日となりました。



【1A: 五十嵐汐那さん】

美味しい弁当を作るには味つけも大事だけど、職員1人1人が丁寧に梱包し、1つ1つ丁寧に扱っているからこそ、人々に愛される弁当が出来るのだと思いました。

【1A: 石澤夏菜さん】

工場見学をして率直に、工場の中で働いてみたいと思いました。私は淡々と同じ作業をこなすことが好きなので、弁当の箱に米を割って入れたり、きょうちゃんを入れたりするのをやってみたいです。また、繊細な作業をする機械もすごいと思いましたが、さらに繊細にかつ丁寧に作業する人の手はやはりどんな機械があっても、必要だと考えさせられました。

【1A: 中村美陽さん】

人の手で弁当におかずを詰めたり、具材の大きさをひとつひとつ確認して、大きすぎるものは別にしたりしているところに、真心をこめているだけでなく、「食を通じて心も満たすことを目指します」という経営理念を大事にしていると感じた。



## 2A 服のチカラプロジェクト

【有賀先生】

服のチカラプログラムとは、(株)ファーストリテイリングが UNHCR(国連難民高等事務所)とともに取り組む、学習プログラムです。ユニクロ・ジーユーの社員が本校に講師として授業をしていただきました。写真や映像、パワーポイントを使って難民について理解するとともに回収した服の活用法、SDGs(Sustainable Development Goals)の概要やリサイクルの意義、服にはどのようなチカラがあるのか考えます。

社員による出張授業を受けたのち、生徒たちが主体となって、校内や地域で着なくなった子ども服を回収します。回収した服は、難民などの服を必要とする世界の人々に届けられます。



【2A権藤りおんさん】

自分がもう着られなくなった服、いらなくなった服は、今まですぐに捨てていました。今回、難民の方達のビデオを見て、自分が着なくなった服が難民の方達のもとに届き生活の役に立つのなら、服を寄付したいと思いました。誰かのために困っている人がいたら、すぐに手をさしのばすことができる人になりたいと思える授業でした。

【2A泉田星空さん】

いつもいらなくなってしまった服は処分していたので、これからは寄付をするなどして少しでも困っている人たちを助けていきたいと思いました。また、自分の服を寄付するだけでなく、家族や友達など周りの人にこのプロジェクトをしていることを伝えていき、難民の方たちに届く服を増やしていきたいです。

## 3A 課題研究発表会

【有田先生】

2年生の後半からテーマ決めを始めた課題研究。他科目とは異なり1年間の研究計画を自分自身で立て、それぞれが責任をもって行動してきました。自分の好きなことを追求するのは楽しいことでもあり、難しいことでもあります。事実に基づいた結果から新たな課題を見つけ、どのように向き合っていくのか。それらをコツコツと積み上げていく継続力と見通しを立てた計画性が鍵になります。身の回りで起きている事象を「自分事」と捉えて、まずは身近な生活に目を向けてみてください。



## 生活科学科の活動を振り返って ~先生方からのメッセージ~

【梁川先生】興味があり入学してきたけど…何度も高い壁にぶつかったのではないのでしょうか。しかし、基本から学び最後はフルコースや松花堂弁当、自分で作った洋服を着てファッションショー。みんな凄いよ！出来ないかも。と思ってもチャレンジする。体験する。知らない事を知る。これってこれからの人生を華やかにしていきます。そして、挑戦をし続ければ失敗は失敗じゃなくなる！自分の人生の主役は自分自身です。ここで学んだ事を糧に素敵な未来を築いてください！

【半田先生】「いつか、普通科と福祉科と授業でコラボレーションをしたい」これが、生活科学科の“栄養と文化”の授業を担当してきてずっと思っていたことでした。今年、1年福祉科、2年普通科の生徒達の考えてくれたメニューを3年生活科が改良をしながら形にしてくれました。なかなか実現不可能なメニューもあったと思いますが、形にしてくれた3年生はさすがだなと思います。この経験を励みに、今後もそれぞれの学科が持ち味を生かして互いに高め合える授業展開をしていくための布石となりました。3Aの皆さんありがとう。

【宗像先生】1、2年生は専門性が高いこの学科での生活を有意義に！3年生はこれからの糧にしてほしいと思います。これは、ただ楽しく過ごして！という事ではなく、良い事も大変な事も吸収して成長してほしいということです。残念ながら努力したら必ず成功するとは限りませんよね、ただ成功する為には努力が必要なのです。私が伝えたい事は結果だけでなく、結果の為に自分の行動を大切にしてほしい。大変な事にも向き合う、向き合った事が、皆さんを成長させてくれます。そんな経験ができるのがこの学科という事を忘れないでほしいと思います。

## 学科発表会

【窪田先生】

生活科学科の一大行事である学科発表会が、1月27日ありました。1年間身につけた知識・技術を様々な形で発表し、より一層盛り上がった会になりました。その裏には実行委員の並々ならぬ努力がありました。7月から集まり、企画書の作成から、展示配置、リーフレット作成、会の進行…ここには載せきれないほどのことを、自分たちには何ができるか真剣に考え行動していました。「生活科学科の全員が楽しめる会」にしたいという思いが一人ひとりにあったからこそ、素晴らしい会になったと思います。来年度も、学科一丸の会になることを期待しています。



【学科発表会実行委員長：3A 仲安ねねさん】

私たち実行委員会は、「全員を巻き込んで楽しむ学科発表会」という活動目標のもと、7月から動き始めました。昨年よりも企画・運営ともに、私たち生徒主体の活動ができたと思います。どの学年も展示、発表ともに日々の学びを活かしながら、作品や劇など工夫が凝らされたものでした。初の試みであるおつけもの慶さんとの実践販売など、発表会に全力を注ぎました。この3年間の全てを詰め込み、仲間と協力し最高の学科発表会にすることができました。

【食物系プロジェクト：3A里川亜依さん】

松花堂弁当を振り返って思う事は、練習から当日まで、凄く濃い毎日だったということです。同じプロジェクトリーダーである小川さんと、放課後の限られた時間で当日の提供が万全な状態で行えるよう準備をしていくのがとても大変でした。私がリーダーをやる事になって、言葉足らずで正直不安な点も多くあったと思います。実習になるとしっかり動いてくれる食物系の皆様には感謝もしきれません！3年間の集大成である松花堂弁当”彩都里”よりも、皆とやっていけた準備期間はキラキラカラフルな思い出です。

【食物系プロジェクト：

3A小川萌衣さん】

約4ヶ月間の期間を経て、プロジェクトリーダーとして多くの人をまとめる事の大変さ、難しさを感じました。食物系の皆の支えがなければ勤め上げる事は出来なかったと感じています。当日はこれまでの経験が活かされ、納得のいくような提供が出来ました。皆のおかげでプロジェクトリーダーをやって良かったと思えました。3年間の集大成として最後に私達らしい最高の松花堂弁当を完成させる事が出来て良かったです。

【服飾系プロジェクト：3A篠崎羽里子さん】

服飾の発表活動を通して私はリーダーという立場で、行動力と計画性、周りの人との信頼感が大切だと感じた1年間だったと思います。ショーを作っていく中で、みんなの意見を取り入れながら統一感のある物に仕上げることができました。本番のファッションショーでは、全員がキラキラした笑顔で楽しんでウォーキングしている姿はとてまかつよく、私の一生の思い出になりました。周りの人の支えがあり、仲間の10人で造り上げた学科発表会のファッションショーは3年間の集大成となりました。

3年生は、今年度は学科の特徴的な活動を多くの場所で発表する機会がありました。神無祭、産業教育フェア、そして学科発表会。発表活動を実りあるものにするためには、多くの時間や準備、仲間との協力、周囲との連携や調整と…多角的な力が必要です。この1年間は座学では学び得ない貴重な経験ができました。それは1、2年生の積み重ねがあったからこそ、実現したことです。食物系の『彩都里』、服飾系の『Limit+』と、コロナから明けてこれからの可能性と明るい雰囲気を感じさせるテーマのもと、皆さんらしい活動が実現できたと思います。この経験が、みなさんの今後に活かせることを期待しています。

【石渡先生】

## 3A 食物系・服飾系活動

